

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

講道館創立 140 周年記念

令和 4 年全日本柔道選手権大会



第 37 回皇后盃 全日本女子柔道選手権大会



優勝した冨田若春選手（右）と準優勝の橋本朱未選手

第 66 回 全日本銃剣道優勝大会



一般の部・決勝（中堅戦）＝野田峻祐選手（左）と西飯勝哉選手

講道館創立140周年記念

令和4年全日本柔道選手権大会

斉藤立が初優勝

史上初の親子制覇



天皇盃を手にする斉藤選手

体重無差別で柔道の日本一を決める講道館創立140周年記念・令和4年全日本柔道選手権大会（主催〓講道館、全日本柔道連盟）が4月29日、3年ぶりに日本武道館で開催された。昨年、一昨年は無観客での開催となったが、今大会は新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、観客を入れての開催となった。

大会は全国10地区の予選を勝ち上がった40名に推薦選手7名を加えた計47名で争われた。

決勝はともに初優勝をねらうさいとうりゅう斉藤立（東京・国士館大）とかげのこころ影浦心（推薦・日本中央競馬会）が対戦。斉藤が14分を超える死闘の末、足車で技ありを奪い、初の栄冠に輝いた。斉藤の父・故仁ひさよしさんも1988年に優勝しており、史上初めて親子での制覇となった。



決勝＝斉藤（上）が足車で技ありを奪う

準々決勝①

小川雄勢 ○反則負け 太田彪雅
 (東京・パーク24) (10分11秒) (推薦・旭化成)

前回優勝の太田彪雅と4月に行われた全日本選抜体重別選手権大会100kg超級で優勝した小川雄勢が対戦。延長に入り両者に二つ目の指導が入る。力を振り絞って前に出る太田に対し、小川は奥襟を取って上から押さえつける。すると消極的試合姿勢として太田に3回目の指導が入り、小川が初の準決勝進出を決めた。



内股をかける小川(左)

試合は、国際柔道連盟試合審判規程および全日本柔道選手権大会申し合わせ事項で行われた。申し合わせ事項として、スコアは「二本」「技あり」「有効」の3種類とし、「技あり」二つで合わせ技「二本」となる。試合時間は4分とし、時間内に勝敗が決しない場合は時間無制限の延長に入り、どちらかにポイントが入った時点で勝敗が決まるゴールデンスコア方式で実施された。

準々決勝③

斉藤立 ○合わせ技 一色勇輝
 (東京・国士舘大) (2分8秒) (東京・日本中央競馬会)

2回目の出場の斉藤立と3回目の出場の一色勇輝。東京代表同士の対戦。開始1分50秒、斉藤が大外刈で技ありを奪うとそのまま抑え込む。袈裟固から横四方固に移行して一本勝。斉藤が初の準決勝進出を決めた。



袈裟固で抑え込む斉藤(上)



横四方固で抑え込む影浦(上)

準々決勝②

影浦心 ○横四方固 小原拳哉
 (推薦・日本中央競馬会) (8分46秒) (東京・パーク24)

2021年ブダペスト世界選手権覇者の影浦心と前回3回の垣田恭平を破って勝ち上がってきた小原拳哉の対戦。延長4分15秒過ぎ、影浦が小原を倒して抑え込むとそのまま横四方固で一本勝。影浦が初の準決勝進出を果たした。

解説DVD付属!

講道館柔道七段 向井幹博 著

役に立つ少年柔道指導法

「柔道指導を通じた人間教育」という理念を基に、少年柔道指導の現場で役に立つ指導方法を掲載。少年柔道が抱える様々な問題点について講道館所蔵の柔道文献から解決の糸口を探る。



A5判・並製・414頁・DVD付
定価2,640円

◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>

準々決勝④

原沢久喜
(推薦・長府工産)

○縦四方固
(4分53秒)

王子谷剛志
(東京・旭化成)

東京五輪100キ^ロ超級代表の原沢久喜と10回目の出場となる王子谷剛志の対戦。延長50秒過ぎ、王子谷が引き込みようとしたところで原沢が体を預けて倒し、そのまま縦四方固で抑え込んで一本勝。原沢が同級生対決を制し、準決勝に進んだ。



縦四方固で抑え込む原沢 (上)

五輪覇者奮闘するも重さの壁高藤(60キ^ロ級)、大野(73キ^ロ級)
東京五輪60キ^ロ級で金メダルを獲得した高藤直寿(推薦・パーク24)と同73キ^ロ級で2連覇を達成した大野将平(推薦・旭化成)が出場し会場を沸かせた。
ともに90キ^ロ級の選手を相手に奮闘するもあえなく初戦敗退となった。高藤は「悔しいです。もう一度戻ってきて次は1勝したい」。大野は「対戦した前田選手が小細工なしで組み合って打ち合いをしてくれたので、足をとめて真つ向勝負ができた。日本武道館に戻って来られたことは誇りに思う」とコメントした。



大外刈を繰り出す大野 (奥)



裏投で倒される高藤 (右)



準決勝①

影浦 心 ○反則負け 小川雄勢
 (推薦・日本中央競馬会) (8分57秒) (東京・パーク24)

延長に入ると疲れの見える小川に対し、影浦は背負投で小川を崩す。延長4分57秒、技が出ない小川に消極的として三つ目の指導が入り勝負あり。影浦が決勝進出を果たした。

こしひ 渾身の背負投を放つ影浦 (下)



準決勝②

斉藤 立 ○反則負け 原沢久喜
 (東京・国士館大) (9分56秒) (推薦・長府工産)

延長1分47秒、原沢に二つ目の指導が入る。斉藤はなおも前に出て大内刈、内股と技を出す。延長5分56秒、受けにまわる原沢に消極的として三つ目の指導が入る。最後まで攻め続けた斉藤が決勝へ進出した。

内股をかける斉藤 (左)

決 勝

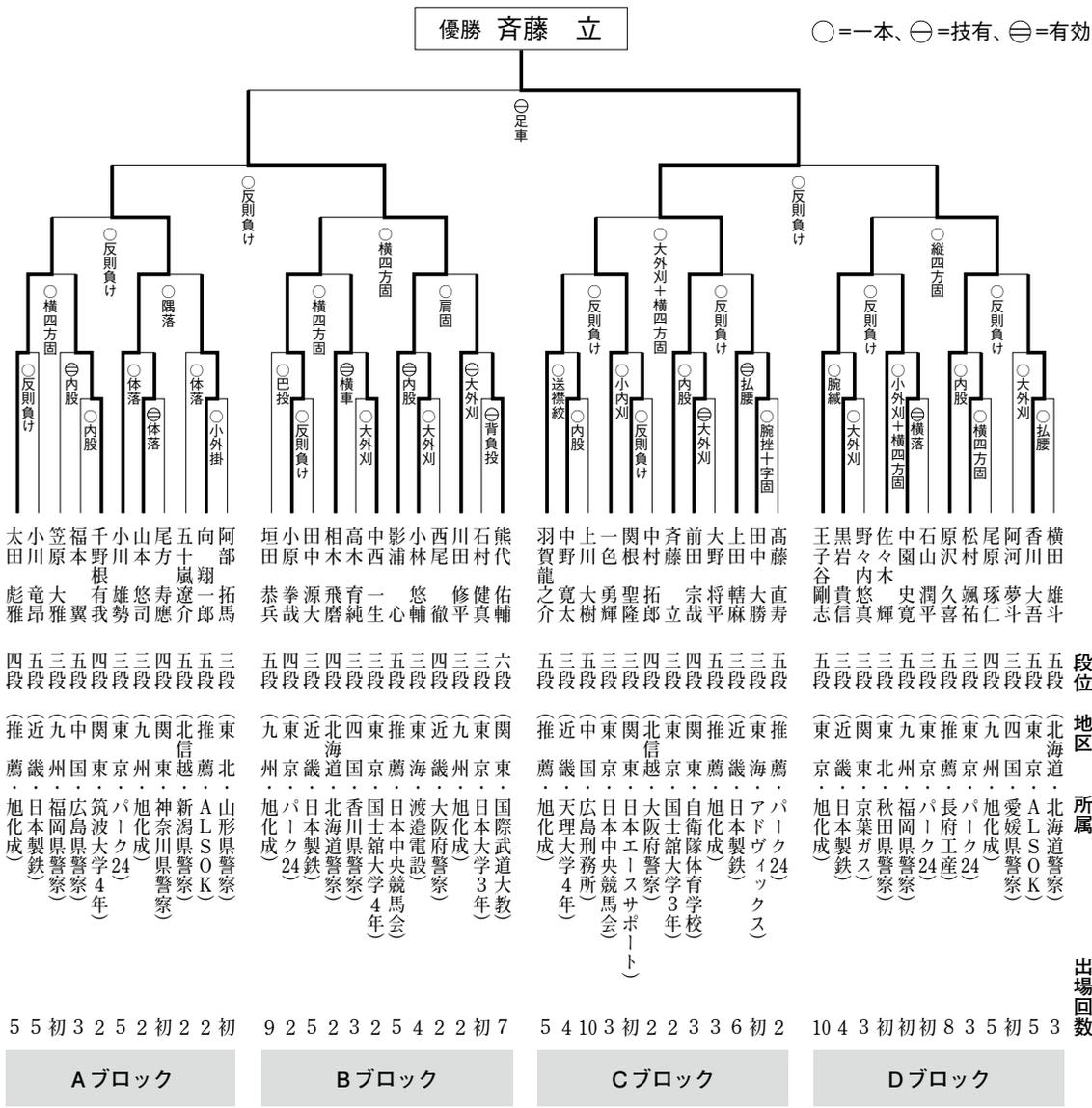
齊藤 立 〇足車 影浦 心
(東京・国士舘大) (14分21秒) (推薦・日本中央競馬会)

初優勝を目指す両者の対決は本戦では決着がつかず延長へ。その序盤、影浦は背負投を仕掛けるが斉藤はこらえる。その後試合は徐々に斉藤のペースとなり、斉藤が内股、大内刈、大外刈と次々と技を繰り出す。延長10分21秒、斉藤は奥襟を取ると足車で影浦を倒し、技ありを奪う。斉藤が14分を超える熱戦を制し、史上初となる親子での全日本選手権制覇を成し遂げた。



14分を超える熱戦の末、斉藤（左）が足車で勝負を決める

令和4年 全日本柔道選手権大会



▽鈴木桂治 全日本男子監督
「(齊藤は)ものすごく成長しているがまだ課題はある。代表になることが目標ではなく、金メダルを取ることが目標。もっと成長してほしい」

◆ 22年世界柔道選手権大会の日本男子代表選手が内定

全日本柔道連盟強化委員会は大後、ウズベキスタン・タシケントで行われる世界柔道選手権大会の代表選手を発表した。未決定だった100キ超級は齊藤が選出され、全階級の代表選手が出そろった。

▽タシケント世界柔道選手権大会

- 60キ級 高藤直寿
- 66キ級 阿部一二三、丸山城志郎
- 73キ級 橋本壮市
- 81キ級 永瀬貴規、藤原崇太郎
- 90キ級 増山香輔
- 100キ級 飯田健太郎
- 100キ超級 齊藤立(新)





皇后盃を手に、笑顔を見せる富田選手

第37回 皇后盃全日本女子柔道選手権大会

富田若春が2度目の栄冠

全日本柔道連盟強化委員会は大
会終了後、10月にウズベキスタン・タ
シケントで開催される世界柔道選手
権大会の日本代表として78キ超級に
富田若春を選出、その他に3選手を
内定した。



大会は推薦選手と全国10地区の予
選を勝ち上がった38名が頂点を目指
した。決勝は富田若春（東京・コマ
ツ）と橋本朱未（東京・コマツ）の
2年前と同じ対戦となり、終始富田
が攻め続けて橋本が反則負けとなっ
た。富田は2度目の栄冠を手にし
た。大会は新型コロナウイルス感染
防止策を講じ、3年ぶりに観客を入
れて開催した。

体重無差別で女子柔道日本一を決
める第37回全日本女子柔道選手権大
会が4月17日、横浜武道館で開催さ
れた。



令和2年に開館した横浜武道館

試合は、国際柔道連盟試合審判規程と全日本柔道選手権大会申し合わせ事項で行われた。試合時間は4分とし、時間内に決まらない場合は時間無制限の延長に入り、どちらかにポイントが入った時点で勝敗を決した。

準々決勝②

富田若春 ○内股 高橋瑠璃
 (東京・コマツ) (4分50秒) (関東・山梨学院大学)
 延長戦に入り、富田(奥)が一瞬の隙をつき、内股で技ありを奪って準決勝に進んだ。



準々決勝④

朝比奈沙羅 ○払腰 井上あかり
 (推薦・ビッグツリー) (5分21秒) (東京・JR東日本)
 5年ぶりの優勝を目指す朝比奈(手前)が延長1分21秒に、両襟から力強く綺麗な払腰を決めて勝ち進んだ。



準々決勝①

児玉ひかる ○崩袈裟固 梅木真美
 (推薦・東海大学) (3分33秒) (東京・ALSOK)
 支釣込足で梅木(手前)を崩して有効を取った児玉はそのまま崩袈裟固で抑え込み、1本勝を収めた。



準々決勝③

橋本朱未 ○膝車 結城彩乃
 (東京・コマツ) (4分53秒) (東京・コマツ)
 超級の橋本と63^{kg}級の結城の対戦。延長戦で両襟をしっかり持った橋本(左)が膝車で技ありを取って勝利した。



準決勝①

富田若春 ○縦四方固 児玉ひかる
 (東京・コマツ) (2分49秒) (推薦・東海大学)

試合中盤、意を決した児玉(下)が大内刈に出るものの、技巧派の富田が隅落で返す。富田はそのまま縦四方固をしっかりと決めて勝利した。



準決勝②

橋本朱未 ○反則負け 朝比奈沙羅
 (東京・コマツ) (11分06秒) (推薦・ビッグツリー)

延長戦で朝比奈(左)に指導が入り、両者は指導2で並び。その後は激戦を展開するが、スタミナ切れの朝比奈に指導3が入って反則負け。橋本が接戦をものにした。



芳田(手前)の2回戦(対鈴木)

■観客を魅了した軽量級の選手たち
 今大会では体重無差別ならでの試合もあった。
 57キの芳田(コマツ)は、1回戦で、63キの高橋瑛美(仙台大学)を小内刈で降し、2回戦では70キの鈴木胡桃(環太平洋大)が反則負けとなり13分もの激闘を制した。3回戦で103キの高橋瑠璃に延長戦の末に敗れた。
 47キの渡名喜風南(パーク24)は初戦の2回戦で132キの蓮尾沙樹(北関東総合警備)と対戦。果敢に挑むものの体重差は85キに及び、大外刈からの崩壊姿で敗れた。
 体格が大きく上回る相手に粘り強く挑む両者の勇姿は観客を魅了した。

決 勝

富田若春 ○反則負け 橋本朱未
(東京・コマツ) (7分29秒) (東京・コマツ)

残り32秒で互いに二つ目の指導が入る。延長に入ると富田(右)が巧みに橋本をいなして攻勢に出る。手数で優った富田が橋本の反則負けによって2年ぶりの優勝に輝いた。



大会は観客を入れて開催された



決勝の様様

困難乗り越えて頂点に

●優勝Ⅱ富田若春 五段(コマツ)



▽オンライン記者会見で、安堵しながら切り出した。

「4月の選抜(78キ超級)に続いて皇后盃で優勝できて嬉しいです。決勝は、同じコマツでいつも練習している橋本選手でしたので絶対勝ちたいという気持ちで臨みました。手の内は知り尽くしていて、投げるのが難しかったので確実に勝てる方法で行くしかありませんでした。技を積極的に出して流れを作れたと思います。昨年、膝を手術したので、その前の状態までコンディションを戻していくのが難しかったです」

▽昨年から多くのけがに見舞われた。昨年6月の世界選手権で両膝を負傷し手術。12月までリハビリを続けた。そして今年4月の全日本選抜柔道体重別選手権の決勝でもけがを負った。皇后盃は2週間後に迫っていた。

「選抜の決勝で右手首の靭帯を損傷し、皇后盃の直前は乱取りなどの練習がほとんどできませんでした。それでも、欠場は考えずに『打ち込みダッシュ』を繰り返していました。医者には本来なら出られない状態と言われましたが(笑)。厳しい状況でもしっかりと優勝できたことは自信になりました」

▽困難を乗り越えた優勝に、確たる自信がのぞいた。最後に今後の抱負を語った。

「昨年の世界選手権では決勝で負けたので今回はきっちり優勝してパリオリンピックにつなげたい。これからの一つ一つの試合を大切にしていきたいです」

○準優勝Ⅱ橋本朱未(コマツ)

「優勝したかったので悔しいです。今日は一日ずっと厳しい戦いになる

と思っていたので、やれることを徹底してやろうと決めていました。決勝では、いつも組み合っているのが分りました。もう少し頑張れば良かったです。富田選手はどんな場面でも技を出してきます。私もいろいろなバリエーションをつけていきたい。次に向けて出場する試合は全て勝ちたいです」

▽第3位Ⅱ児玉ひかる(東海大学)

「やってきたことを出そうとしましたが、できませんでした。富田選手には、技を仕掛けられないように注意しましたがダメでした。こちらも仕掛けていきましたが返されませんでした。次の大会では優勝を目指したいです」

▽第3位Ⅱ朝比奈沙羅(ビッグツリー)

「(1週間前にコロナに感染し体調を崩し)初戦からボロボロでした。技は悪くはありませんでしたが、体調管理ができず、最後はスタミナで負けてしまいました」

▽ベスト16まで勝ち上がった57歳級の芳田司(コマツ)

「(皇后盃に)挑戦したいという気持ちが強かったです。いろいろな階級の選手と戦えたのはいい経験になったと思います。(重量級の選手でも)動いて粘り強く技数を出していけば相手を翻弄できます。気づきが多くあった大会でした。パリに向けて全力で頑張りたいです」

▽金野潤 全日本強化委員長

「富田は2週間前の試合でのけががあり、コンディションを整えるのは難しかったと思う。それでも調子を上げてきたことには成長を感じた。超級には素根輝もいるので、競い合える良い状況になってきている」

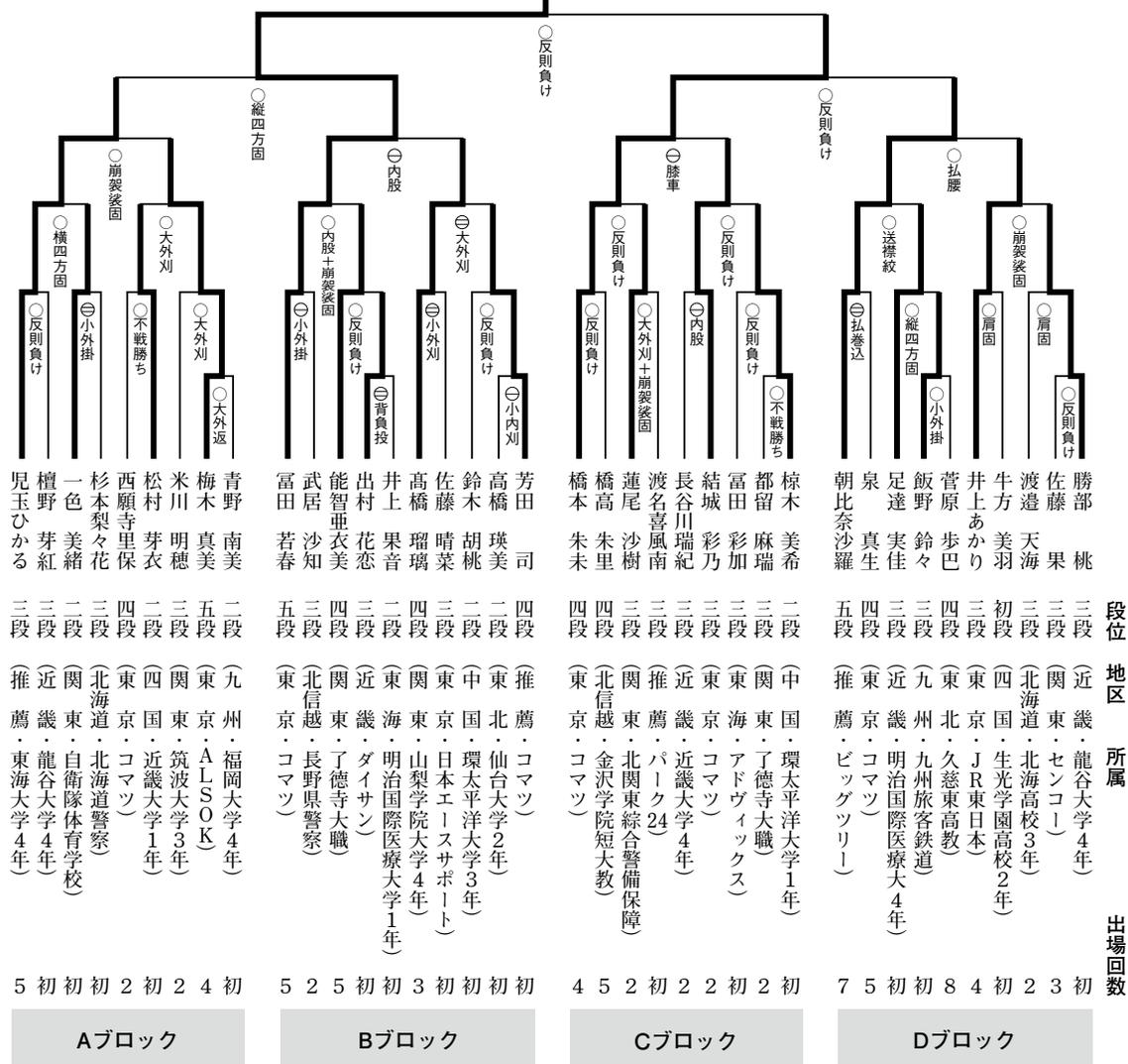
▽増地克之 全日本女子監督

「富田は自分を奮い立たせて戦っていた。気持ちを切らさず、結果を残したことは評価できる。世界選手権はパリに繋がる重要な大会。選手たちの強化を図っていく形で進んでいきたい。芳田については、挑戦する勇氣に頭が下がる。内容も持てる力を十分に発揮し、子どもたちにも勇氣を与えたと思う」

第37回皇后盃全日本女子柔道選手権大会

優勝 富田 若春

○=一本、⊖=技有、⊕=有効



強化委員会後記者会見に増
臨む金野委員長(左)と地
監督

■22年世界柔道選手権大会の
日本女子代表選手が内定

全柔連強化委員会は大大会後、タシ
ケントでの世界柔道選手権大会代表
選手として、78キ超級の富田ととも
に、70キ級で1人、団体の57キ級と
78キ超級で1人ずつを追加で選出し
た。以前発表した階級と合せて全階
級の女子代表選手が出そろった。

▽タシケント世界柔道選手権大会
日本女子代表選手

- ・48キ級 渡名喜風南、角田夏実
- ・52キ級 阿部詩
- ・57キ級 舟久保遥香
- ・63キ級 堀川恵
- ・70キ級 田中志歩、新添左季(新)
- ・78キ級 濱田尚里
- ・78キ超級 富田若春(新)
- ・団体57キ級 玉置桃(新)
- ・団体78キ超級 朝比奈沙羅(新)

第66回全日本銃剣道優勝大会



防衛省第1部・決勝（大将戦）＝小倉（左）が下胴を決める

防衛省第1部

普通科教導連隊（静岡）が 14年ぶりの優勝

第66回全日本銃剣道優勝大会（主催Ⅱ全日本銃剣道連盟、後援Ⅱ防衛省、スポーツ庁、日本スポーツ協会、日本武道館、日本武道協議会ほか）が4月24日、日本武道館で全国から4部門に計159チーム、796名の監督・選手が集まり、開催された。本大会は、新型コロナウイルス感染拡大のため2年連続で中止となり、3年ぶりの開催。コロナ禍のため例年より少ない参加人数となったが、参加者は覇気に満ちた試合を繰り広げた。陸上自衛隊の指定の部隊が対象の防衛省第1部（5人制）は、普通科教導連隊（静岡）が第16普通科連隊（長崎）を3―2の接戦で制し、平成20年以来14年ぶりに優勝の栄冠を擲んだ。

女子の部（3人制）では、前回優勝チームの北海道選抜A（北海道）が愛媛県選抜（愛媛）を2―1で降し、連覇を達成した。

海上、航空自衛隊と1部以外の陸上自衛隊部隊が対象の防衛省第2部（5人制）は、日本原駐屯地（岡山）が対馬駐屯地（長崎）を3―2で降し、13度目の優勝に輝いた。

一般の部（3人制）では本間道場



女子の部・決勝（先鋒戦）＝寒河江（左）が2本目の上胴を決めて勝利

女子の部

北海道選抜 A（北海道）が堂々の連覇を達成



選手宣誓＝森音葉選手
（女子の部・北海道選抜A）



番匠幸一郎
全日本剣道連盟会長

が選手宣誓を行った。

葉選手（女子の部、北海道選抜A）

後、長島昭久衆議院議員、赤池誠章参議院議員が来賓祝辞を述べ、森音

開会式では番匠幸一郎全日本剣道連盟会長が挨拶を行った。その後、長島昭久衆議院議員、赤池誠章参議院議員が来賓祝辞を述べ、森音葉選手（女子の部、北海道選抜A）が選手宣誓を行った。

（神奈川）が東部支部A（東京）を3-0で破り、神奈川選抜として出場した第61回大会からの4連覇を果たした。



防衛省第1部・決勝（中堅戦）＝普教連・佐藤（左）が上胴を決める



防衛省第1部・準決勝第1試合（副将戦）＝
16普連・園田泰之（右）が上胴を決める

防衛省第1部（58チーム、340名出場）

▽準決勝

第1試合は第16普通科連隊（長崎）と第15即応機動連隊（香川）の顔合わせ。結果は16普連が5戦全勝という圧巻の強さを見せつけて決勝へ。

第2試合は普通科教導連隊（静岡）と第40普通科連隊（福岡）の対戦。試合は中堅まで普教連が3連勝利し、決勝へ駒を進めた。

▽決勝

普通科教導連隊 3 | 2 第16普通科連隊
竹内巨樹 一 | 下 高濱雄太
西村健一 判 | 中前圭輔
佐藤 岳 上判 | 上 牟田裕宣
鈴木孝信 一 | 上上 園田泰之
小倉弘之 下 | 岩永健太

先鋒戦は16普連の高濱が開始と同時に下胴を決めてそのまま逃げ切り勝利を収める。

次鋒戦は普教連・西村が何度も鋭い突きを繰り返す積極的な姿勢を見せ、判定勝ちを収める。

中堅戦は普教連・佐藤が試合中盤で体勢を崩した牟田の上胴を突いて1本。しかし、牟田も負けじと試合終盤で上胴を決めて取り返す。そのまま試合終了となり判定へ。旗は佐藤に3本上がり普教連がリードする展開に。

しかし、副将戦で過去に全日本銃剣道選手権大会（個人戦）で2度の優勝経験を持つ16普連・園田が上胴を2本決め、決着は大将戦へ持ち越される。

大将戦は両者激しい攻防を展開する中、先に動いたのは普教連・小倉。中盤に岩永の隙を見て鋭く下胴を突いて1本を取ると会場が大きく沸いた。岩永は反撃を試みようとするも小倉が上手く捌いて技を決め切るこ
とができないまま試合終了。普教連が14年ぶりに王座奪還を果たした。

◎優勝Ⅱ普通科教導連隊（静岡）

坂元誠監督

「私たちは昨年度、静岡県御殿場市で予定されていた銃剣道大会の運営

防衛省第2部（47チーム、270名出場）

▽準決勝

第1試合は平成29、30年大会の覇者である対馬駐屯地（長崎）と北熊本駐屯地（熊本）の一戦。試合は先鋒戦で北熊本・久保田将平が勝利を収めるも次鋒戦から大将戦まで対馬が連勝し、安定した強さで決勝に進んだ。

第2試合は過去に12回の優勝を誇る日本原駐屯地（岡山）と、初めて準決勝に駒を進めた宇都宮駐屯地（栃木）の対決。試合は日本原が先に2勝するも、中堅・副将戦で宇都

に携わっていました。しかし、大会が中止となり、目標設定が非常に厳しい中、練習を続けていました。今大会を開催してくださったことに感謝すると同時に、何とか選手たちを優勝させたいと思っていたので、それが実現できて本当に嬉しいです。序盤は選手の動きがあまりよくありませんでしたが、主力選手を筆頭に徐々に動きが良くなり、勝ち切るこ
とができました。連覇を目標に今後
も精進していきます」

宮が2勝して巻き返し、勝敗は大将戦へ。大将戦は両者激しい攻防を繰り広げるも有効打突がなく、試合終了。判定は日本原・徳田裕人に軍配が上がり、見事連覇のかかる決勝進出を決めた。

▽決勝

日本原駐屯地	3	1	2	対馬駐屯地
二宮祐樹	上	下	1	中根真孝
大庭裕二	1	判	1	山本卓
厨子真守	判	1	1	河端勇樹
内藤介斗	ノ	1	1	井達哉
徳田裕人	1	下	1	岩橋練

先鋒戦、試合終盤まで激しい攻防を展開する両者。試合が動いたのは残り10秒ほどだった。日本原・二宮は対馬・中根が下がったところにも上胴を突いて1本。さらに試合再開の合図と同時に上胴を突こうとした中根の隙を見て、二宮が下胴を決めて2本勝ちを収めた。次鋒戦では対馬・山本がポイントを取り返そうと攻めの姿勢を強く見



防衛省第2部・決勝（先鋒戦）＝日本原・二宮（左）が1本目の上胴を決める



防衛省第2部・決勝（副将戦）＝日本原・内藤（左）が終了間際に対馬・井のノドを突いて日本原の優勝を決める

せての判定勝ち。しかし、続く中堅戦で今度は日本原・厨子が判定勝ちを収め、再び日本原がリードする展開となる。

勝負の分かれ目となる副将戦は弱冠19歳の内藤と対馬・井の対戦。試合は序盤から激しい攻防が繰り広げられる。しかし、終盤に内藤が仕掛ける。内藤の突きを躲（かわ）そうと井がかがんだ隙を狙い、内藤が鋭く喉を突いて1本。そのまま試合終了となり、この時点で日本原の優勝が決まった。

大将戦は対馬・岩橋が粘りの下胴を決めて終了。日本原が連覇を達成

一般の部（28チーム、94名出場）

▽準決勝

第1試合は東部支部A（東京）と九徳塾（滋賀）の顔合わせ。先鋒は判定により東部A・藤光祐杜が勝利

を収める。続く中堅戦は東部A・西飯勝哉が試合時間54秒で2本目の有効打突を決めて東部Aが勝利した。

第2試合は大会連覇のかかる本問道場と横浜修悠館Aの神奈川同士の対決となった。試合は本問道場が大

◎優勝Ⅱ日本原駐屯地（岡山）

上田啓二監督

「コロナの影響で対外試合ができなかったため、選手一人一人には練習ができない中でも自分にできることを一生懸命やるように伝えていました。1回戦は久しぶりの試合のため、動きの固い対戦が多かったです。徐々に慣れていき、最終的に優勝に繋がってよかったですと思います。決勝では副将の内藤選手が最後の最後で打突を決め、大活躍してくれました。来年も連覇達成ができるように練習を頑張っていきます」

将戦までオール2本勝ちで圧倒的な強さを見せつけ勝利。事実上の4連覇がかかる決勝へ進んだ。

▽決勝

本問道場 3-0 東部支部A

野原 崇 上下一 藤光祐杜

野田峻祐 上上ー 西飯勝哉

鈴木崇之 上上ー 下里勝秋

先鋒戦は「始め」の合図直後に本問道場・野原が上胴を突くが旗は1



一般の部・決勝（大将戦）＝本間道場・鈴木（左）が2本目の上胴を決めた



一般の部・決勝（先鋒戦）
＝本間道場・野原（左）が下胴を決める



一般の部・準決勝第2試合（中堅戦）
＝本間道場・野田（左）が下胴を突く

「優勝できて嬉しいです。コロナの影響で練習が半年できない時や、大会がなくてモチベーションが保てない時がありました。その中でもみんなが集まれる時はしっかり練習を積むようにしていました。次も連覇が更新できるように日々の稽古を頑張っていきたいと思います」

◎優勝Ⅱ本間道場（神奈川県）
鈴木崇之監督
大将戦は本間道場・鈴木が2本勝ちを決め、圧倒的な強さを見せつけて4連覇を達成した。

本しか上がらない。しかし、野原は間髪いれずに再度上胴を攻め、1本を決める。素早い動きを見せる野原は開始1分5秒、再び一気に藤光の下胴に飛び込み、2本目を決めて幸先のようなスタートを切った。
中堅戦は序盤、東部A・西飯が技を仕掛けるが、本間道場・野田は冷静に捌く。しかし、開始2分30秒過ぎ、野田が西飯の隙をつき、上胴を決めて1本。その直後の試合再開と同時に西飯が下胴を突くも野田が合わせて上胴を突き、旗が野田に2本上がって勝利。この時点で本間道場の優勝が決まった。



女子の部・決勝（先鋒戦）＝寒河江（左）の1本目の下胴



女子の部・準決勝第2試合（中堅戦）＝北海道A・森（左）が攻めた姿勢で勝利を掴む

女子の部決勝（26チーム、92名出場）

▽準決勝

第1試合は、大将が不在ながらも残る2選手の活躍で1回戦から全勝で勝ち上がった愛媛県選抜（愛媛）と第41普通科連隊（大分）の対戦。愛媛はこの対戦でも怒濤の強さで2勝をもち取り、初の決勝戦へ。

第2試合は北海道選抜Aと第26普通科連隊の北海道同士の組み合わせ。先鋒戦で北海道A・寒河江瑞希が下胴を決めて勝利すると、続く中堅戦では北海道A・森音葉が判定で勝利を収めて決勝進出を決めた。

▽決勝

北海道選抜A 2-1 愛媛県選抜

寒河江瑞希 下上 西原由希乃

森 音葉 上上 村上千ね

大野裕美 不戦勝

先鋒戦は多くの大会で優勝経歴を持つ北海道A・寒河江が圧倒的強さを見せる。試合開始と同時に下胴を決めて1本。そして試合再開直後、寒河江は後ろに引いて様子をつかがっていた西原の上胴を素早く突いて2本目を取り、わずか9秒で試合終

学校武道の歴史を辿る

藤堂良明 (とうどう りょうめい) (筑波大学名誉教授) 著 四六判・上製 354頁・定価2640円

江戸時代の藩学教育に遡る学校武道の歴史。明治維新を迎え武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度のなかに組み込まれ発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え「格技」として復活、平成24年には「中学校武道必修化」の完全実施が実現。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後の学校武道のあり方を探る。



◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



優勝した北海道選抜Aの(前列左から)熊木監督、寒河江、大野、森の3選手

了。大将戦は北海道Aの不戦勝が確定していることからここで北海道Aの連覇が決まった。

続く中堅戦では愛媛・村上が意地を見せて上胴を2本決めて一矢を報いた。

◎優勝II北海道選抜A (北海道)

熊木武彦監督

「この3年間、試合がなく、モチベーションの維持が難しかったですが、常に目標を掲げて取り組んできたことが優勝に繋がったと思います。1回戦から先鋒の寒河江選手がしっかりと勝ち切ってくれたので安定した勝利を収めることができたと思います。来年の3連覇を目指してまた頑張りたいと思います」

大会結果

- ▶ **防衛省第1部** = ①普通科教導連隊 (静岡)
②第16普通科連隊 (長崎)
③第15即応機動連隊 (香川)
第40普通科連隊 (福岡)
- ▶ **防衛省第2部** = ①日本原駐屯地 (岡山)
②対馬駐屯地 (長崎)
③北熊本駐屯地 (熊本)
宇都宮駐屯地 (栃木)
- ▶ **一般の部** = ①本間道場 (神奈川)
②東部支部A (東京)
③横浜修悠館A (神奈川)
九徳塾 (滋賀)
- ▶ **女子の部** = ①北海道選抜A (北海道)
②愛媛県選抜 (愛媛)
③第41普通科連隊 (大分)
第26普通科連隊 (北海道)